

## ヤングケアラー支援ケース 一覧表

	年齢	学年	家族構成	現状	援助方法
1	男子：17歳	在宅	父55歳、母54歳、 妹9歳（小4）	母のメンタルヘルスは不安定で、妹の食事作りなど、本児が養育を代わりに 行っている。2年前、本市に転入してから妹は登校できていない。（本児も在 籍はない。）父母は離婚しているが、実質同居している。経済的に困窮して おり、家の中は整理されていない。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を 配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていき たい。
2	男子：16歳	在宅 （アルバイト）	父47歳、母42歳、 兄19歳、弟8歳、妹4歳	両親の就労不安定により経済的困窮が見られる。弟、妹の出産時もネグレク トが心配されていた。市営住宅で家賃滞納、水道料未納が続いた。兄と本児 が高校を退学しアルバイトを始めたことで、家の借金が返済されている。	市と情報共有をしながら、本家庭に生活上の困りごとを聞いていく。必要な 支援を提供したいが、生活改善が進まないケースである。
3	男子：17歳	高校3年生	母48歳、 弟16歳、妹15歳、弟14歳	母は気分の波があり、就労も不安定である。4人の子どもは中学、高校と所属 はあるが、不登校になっている。市で行う居場所に妹（15歳）、弟（14歳） が利用する。母の体調が優れないことが多く、本児が家族の夕食を作ってい る。経済的に困窮しており、家の中は整理されていない。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を 配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていき たい。
4	女子：17歳	高校3年生	父46歳、弟12歳（中1）	数年前に母が亡くなり、父が家に寄りつかなくなる。食事が日に1～2食の時 もあったという。現在、父は仕事で夜21時ごろ帰宅する。本児は通信制高校 に所属し、普段アルバイトを行う。日中、弟の世話も含め、食事は本児が 行っている。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を 配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていき たい。
5	女子：11歳	小学校6年生	父44歳、母48歳、 弟7歳（小2）、弟5歳	家はゴミが散乱していて、ゴミ屋敷状態である。祖母が元気なうちは子ども を見ていたが、祖母が数年前になくなってから、本児と弟は不登校になる。 父母は養育をせず仕事に行っている。下の弟たちの世話をするため、本児は 学校に通えなくなっている。	週1回の弁当配食を行い、本家庭との関係性を作ることを目標にする。弁当を 配ることから、日常の困りごとや生活の手伝いに対応できるようにしていき たい。
6	男子：14歳	中学3年生	母45歳、姉21歳、弟10歳 （小5）、弟4歳	三男は体調を崩しやすく低体重が続く。長男が母の代わりに三男と一緒に遊 ぶ。母は三男と寝るが、服薬しているため起きることができない。夜間に三 男が起きてきたとき、長男が三男が寝るまで世話をする。長男、二男は不登 校。昼夜逆転。月2回のショートステイ時のみ登校できる。母の就寝後、夜間 に三男の火傷が起こる。数日経って支援者の指摘により事故に気づく。母子 は保護を望まない。支援者と本家庭の関係は良好。	当センターは長男と二男、（必要に応じて三男）をショートステイとして月2 泊3日×2回一時預かりをする。本ケースは児相、市こども担当課、市福祉事 務所、アステラス、病院、保育園、小中学校、SSW、障害児者相談支援セン ター、放課後等デイサービス事業所、家事支援ヘルパー、民生児童委員と多 くの機関が支援する。母の養育力不足、長男が弟の面倒を見るが続く が、当センターでショートステイを利用中は、ケアする側から、ケアされる 側になる。具体的には、食事をとり、洗濯がされ、好きな絵を描く時も褒め られる。弟たちにも優しく気遣いができるお兄さんになる。
7	女子：12歳	小学6年生	実父40歳、 妹小学1年生、弟3歳	父子世帯で、父が身体障害者手帳2級所持、メンタルクリニックにも通院。母 は昨年自死。子どもはA（小学6）、B（小学1）、C（3才男児）の3人。、子 どもたちがCの世話を担っている。また、父の障害もあり、子どもたちは日常 のことを自分たち自身で行わなければいけない現状にある。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進 める。横浜型児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事 業を活用し、ケアされる時間を確保している。また不定期で訪問面接を行っ ている。
8	女子：16歳	高校1年生	実母40歳、姉19歳	母子世帯で、母は精神症状を呈しており医療保護入院の経過あり。子どもはB と姉の2人。姉もメンタルに不調を抱えている。母と姉との関係がよくない時 には、その狭間に本児が立たされており、両者の話し相手になるなどして、 精神的ケアを担っている。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進 める。食支援をきっかけとした訪問を定期的に行っているが、学校生活が忙 しいこともあり、本児と顔を合わせる機会は少ない。母とはつながりを持つ ことができている。本児とは、LINEで連絡を取り合っている。

9	女子：11歳	小学6年生	実母40歳、妹1歳	母子世帯で、母はメンタルクリニック通院中。気分の波があり、寝込むことも多い。子どもはM（小6女兒）、H（1才女兒）の3人。母がHのケアを行うことが難しいときに、Eが担っている。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進める。横浜型児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事業を活用しケアされる時間を確保している。 LINEを活用し、様々な悩み事などの対応している。
10	女子：10歳	小学4年生	実母35歳、弟7歳	母子世帯で、母はうつ症状で通院中。弟は自閉症スペクトラム障害。休日は弟の面倒を看ることが多い。母は口うるさく最近では反抗的な態度を繰り返している。	今月から支援開始している、要対協ケース。支援にあたっては、横浜型児童家庭支援センターの特徴の一つである、子育て短期支援事業を活用し、母と離れる時間、D自身がケアされる時間を確保するため、週1回トワイライトステイを実施している。
11	男子：16歳	高校1年	実母45才 義父40才 異父弟10才	父母子ども4人世帯ではあるが、日常的に父が不在の家庭。母は精神障害者手帳3級所持。メンタルクリニック通院中。Eが家庭内で夫かつ父親的役割を担っている現状があり、本音を吐露しにくい状況にある。ストレスが身体症状（発熱や嘔吐等）に現れる傾向にある。弟も母に対して様々な思いを抱えていると推察される。	要対協ケース。支援にあたっては、関係機関と連携を密に取り合いながら進める。関係機関カンファレンス、Eや弟との面接を定期的に行い、家庭状況や子どもたちそれぞれの状態をアセスメントしている。
12	女子：17歳	高校2年生	実父41歳、実母40歳、 弟6歳	両親、弟とSさんの4人家族で父は会社勤務、母は無職、弟は保育園児。母は精神疾患で長年通院・服薬しており、家事全般を苦手としている。食事は惣菜や加工食品を購入することが多く、収入に対して食費の割合が高い。父は仕事が忙しいため、家事や育児には協力的ではない。Sさんは年齢の離れた弟を非常に可愛がっており、乳児の頃から授乳やオムツ交換を担ってきた。小学校高学年から不登校気味で、高校卒業が危ぶまれている。	①心理士が母と定期的に面談をする ②週1回程度家庭訪問をし、困りごとを聞く ③学校などと連携し、Sさんの学習支援や外出支援をしながら進路についての話をしていく ④自転車・食品などニーズに合った物を届ける
13	男子：13歳	中学1年生	実母53歳、母方祖母95歳、 叔母（県外在住）50歳	N君は父と死別し、母、母方祖母と3人家族。母は体が弱く、定期的に通院・服薬している。家事を担ってきた祖母が最近要介護状態となり、県外に在住の叔母が時おり訪問して協力はしているが、日常生活や通院等、生活全般で母はN君に頼ることが増えてきている。N君は中学校では支援学級に在籍。穏やかな性格で、今のところ特に問題は見られないが、家ではスマホを見ていることが多く、最近登校しぶりが見られる。	①心理士が母、N君と月1回程度面談をする ②月1回程度家庭訪問をし、家事支援をしたり、困りごとを聞いたり、場合によっては母や祖母の通院同行などを行う ③S君の学習を補助するとともに、話し相手になる ④自転車・食品などニーズに合った物を届ける
14	女子：16歳	高校1年生	実父59歳、実母56歳、 実姉27歳	両親、姉とKさんの4人家族。父は派遣の仕事で県外へ行くことが多いが、最近体調を崩して入院し、退院したばかり。短期で仕事をしており、収入は不安定。母は東南アジア出身で、日常会話はできるが複雑な内容の理解は困難。姉やKさんが通訳のような役割をしてきた。パートで働いていたが病気で退職し、現在は無職。姉も父が入院した頃から体調を崩し、正社員として働いていた会社を退職。現在は求職中。世帯の収入が低くなり、Kさんのアルバイト代を当てにせざるを得ない状況となっている。	①週1回程度家庭訪問をし、Kさんや母と一緒に食品や日用品、衣類などの買い物を ②学校と連携しながらKさんと将来のことなどを話す ③自転車・食品などニーズに合った物を届ける ④ご家族の状況をお聞きしながら、市役所と連携を取って支援につないでいく ⑤ご家族の通院や市役所・ハローワークなどでの手続きに同行する

15	女子：12歳	小学6年生	実母39歳、 長女17歳（通信高校）、 次女14歳（中2）	ひとり親家庭で、母・長女・次女・三女の4人暮らし。長女は通信制高校に通いながら、アルバイトをし、学費を稼いだり家計を少し助けている。母親は夜から朝にかけてパートタイムの仕事をし、睡眠不足でいつも疲れている。母親に頼まれ、子ども達が母に代わり、お米を炊くことはたまにある。母親が職場から持って帰った弁当を食べたり、1日1食の日も多く、食べずに寝てごまかす日もあり、冷蔵庫が空っぽと表現する時もある。次女と三女は母親の送迎で適応指導教室へ週2回通っていた。三女も次女も修学旅行が楽しみで登校を短時間だが頑張れた時期があり、修学旅行に行く夢を叶えた。三女が中学校に入学したことで姉妹で週1回1時間登校できるまでになった。母親は買い物に出かけたり、洗濯などはできる様子だが、食事を作るだけの気力はなく、食事の支度がほぼ毎日できていない状態。	<支援の体制> こども食堂の食材配布（月2回金曜日）のための家庭訪問の実施、あわら児童家庭支援センターの不登校やひきこもりの児童を対象にしたグループ活動（はらっぱ活動 月1回土曜）の実施やこども食堂（名称：まる）へお誘いを継続する。子育て支援課や適応指導教室（名称：いきいき教室）との情報交換や連携の継続。今後、学校との連携の機会を増やしたい。 <具体的な援助方法> こども食堂の食材配布時に玄関で対応してくれた子どもや母親と会話を通して交流と家庭の状態把握を継続。月1回のはらっぱ活動では、同年代の子ども達やスタッフ（大人）と交流し、対人関係を体験し、他人への安心感や信頼感社会への欲求を育み、社会性を育てたい。活動にクッキングを取り入れたことで、クッキングへの興味関心も高まり、子ども達が家庭でも料理をする力を身に付けたり、生きていくための力を身に付ける機会にしたい。
16	女子：13歳	中学1年	実母44歳、 姉19歳、弟10歳	日系ブラジル人の母子家庭で、母親は自営業。 姉は、体調不良の日が多く、本児が家事の一部や弟の世話を担っている。現在、本児は、自らの成長に伴い、今後さらに家事負担が増えることをとても心配している。	地元でこども食堂や学習支援等、集いの場を主催することで、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している野尻富美氏（NPO法人春駒サポーターズ支援マネージャー）の全面的な協力を得て、支援を実施する。 まずは、こども食堂（名称：みんなの食堂）等を足掛かりに接点を見出したい。
17	女子：17歳	高校1年生	実父44歳、実母42歳、 妹9歳、弟7歳	日系ブラジル人の家庭で、父母ともに派遣社員として大きな工場働いている。夜勤業務のある仕事であるため、夜間に長女である本児が妹と弟の面倒を見ることが多々あり。また両親の日本語が不十分なために、本児を通訳で同行させることも度々ある。本児はとても頑張り屋さんで、地元の進学校で勉強に励んでいる。	地元でこども食堂や学習支援等、集いの場を主催することで、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している野尻富美氏（NPO法人春駒サポーターズ支援マネージャー）の全面的な協力を得て、支援を実施する。 まずは、こども食堂（名称：みんなの食堂）等を足掛かりに接点を見出したい。
18	男子：15歳	高校1年生	実父34歳、実母34歳、弟5歳、 妹4歳	日系ブラジル人の家庭で、父母ともに派遣社員として大きな工場働いている。夜間に長男である本児が妹と弟の面倒を見ることが多々あり。また両親の日本語が不十分なために、本児を通訳で同行、または本児が弟妹の通院付き添いをすることも度々ある。 本児はこれまでに18回転校をしている。	地元でこども食堂や学習支援等、集いの場を主催することで、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している野尻富美氏（NPO法人春駒サポーターズ支援マネージャー）の全面的な協力を得て、支援を実施する。 まずは、こども食堂（名称：みんなの食堂）等を足掛かりに接点を見出したい。
19	女子：16歳	高校1年生	実父40歳（別居中）、実母40歳、 兄18歳（自立）、姉17歳	日系ブラジル人の家庭で、父母は別居している。母と一緒に住んでいるが、生活は困窮している。小学校の頃より、母が家事をせず兄妹で生活しているような家庭。母は自分の生活しか考えていない。	地元でこども食堂や学習支援等、集いの場を主催することで、日系ブラジル人の子どもやその家族を支援している野尻富美氏（NPO法人春駒サポーターズ支援マネージャー）の全面的な協力を得て、支援を実施する。 まずは、こども食堂（名称：みんなの食堂）等での関りを中心に支援する。
20	男子：17歳	高校3年生	父(40代)、母(40代)、 妹（中2）、祖母、祖父	隣に祖父と祖母が住んでおり、認知症の祖母の介護（見守り）を行っている母を手伝っている為、高校卒業後正社員での就職ができない状況。祖父は祖母の施設入所を渋っており、祖父を説得したいが応じてくれない為、祖母を家で看るしかできない。	相談のあった高校を訪問し、教諭と情報共有を行った。祖母の件に関しては地域包括支援センターへ相談し、支援の手立てを教えてもらった。高校教諭と連携を取り、これからの自立支援に向けて支援を行っていく。
21	女子：17歳	高校2年生	父（50代）、叔父（50代）	学習支援をしている団体から連絡が入る。フィリピン人の母親と日本人の父親とのハーフで、乳幼児期から小学校高学年まではフィリピンで生活。母親とは離婚している。小学校高学年の時に日本へ帰国した。不登校の時期もあり、フィリピンにも行くが馴染めていない。父は全く家事はせず、毎食、夕食は必ず作るように決まっている。父親が頑固な性格で、強く叱責をしたり、暴力的なところもある。日本語の学習をしているが、日本の制度などの理解は難しい。父親は最近病気がち。	学習支援団体とケース会議などを行っている。 本人と面談を行い、本人のニーズや希望について聴きながら、父親との接触を試みる。 児童扶養手当やひとり親家庭の支援も詳細が分からない。必要に応じて手続き支援なども行っていく。

22	女子：18歳	高校3年生	母（40代）、父（40代） 妹（小2）	両親とも仕事をしており、妹は軽度知的障害あり。両親に代わって、妹の登校前の着替え、食事、登校付添い、学校との連絡などを本児が行い、妹の登校しぶりもあるため、高校の遅刻、欠席などが増えていく。土日仕事も両親に代わって本児の世話をしており、夕食などの準備を本児が行うことも多い。進路選択の時期にあたるが、家庭環境が不安定であること、過去の被虐待歴による対人関係の不調があることにより、進路の検討だけではなく卒業そのものが危ぶまれる状況となる。一時保護、DVによる警察介入の家族歴あり。	母親、姉にそれぞれ担当者をつけ継続的なカウンセリングを行い、両親間の関係調整、親子関係の調整を行う。また、妹への支援として、学校と連携し、放課後等デイサービスの利用や手帳取得などに向けて障害福祉のサービスとのコンタクトを図る。姉の進路決定については、学校の進路指導担当教諭とも連携し、伴走支援を行う。
23	女子：15歳	中学3年生	父、母	父は双極性障害で休職、入院、復職を繰り返し、母もうつ病の既往がある。父の双極性障害の進行に伴う人格荒廃がすすみ、家庭内での夫婦喧嘩が絶えず、母の精神的な支えとなる時もある。母子ともに父の行動に振り回され疲弊した状態が2～3年間続いている。 子どもの抑うつ感は悪化し続け、不眠、食欲低下、無気力などがみられ、常時「やる気がおきない」状態。希死念慮が強まることもしばしばあり、外出が困難な時もある。父の治療経過の中で、精神医療に対する母の抵抗感が強い。子どもの精神科受診にも中々つながらず、ようやく受診しても、定期的な通院に至らない状況。4月以降、高校に入学するが、高校生活における対人関係の不安感は強く、合格後も疲弊感は回復していない。	児童家庭支援センターで母子通所され、親子双方のカウンセリングを継続している。行政サービスや医療につなぐことを目指すが、現在のところ両親はサービス利用に消極的であり、子どもが不調で外出が難しい場合には、子どもも担当者が、時々家庭訪問をし子どものカウンセリングを継続するとともに、家庭内に第三者が入ることのハードルを下げていきたいと考えている。
24	女子：11歳	特別支援学級 5年生	母	○家庭が抱えている問題 母が妊娠を機に体調をくずしうつを発症。その後父とは離婚し、母子家庭となる。母は実家族との間でトラブルがありPTSD。病気で調子の波があり、横になり子どもに関わるのが難しい時間も長く、横になっている母を世話したり見守ったりしている。不登校で母子家庭という閉鎖的な環境の中で母と児の結びつきが強く、母子ともにお互いの気分の波が影響しあっている。実家族や親戚との交流がなく、母自身継続して関係を築くことが難しい。 ○児童の置かれている困難状況や困り感 小3から不登校気味、2学期始業式は何とか登校できたが、教室に上がることが難しい状況が続き不登校状態である。学校へ行きたい気持ちもあるが、家庭の不安定さから登校ができていない。母は状態よって児の気持ちに寄り添うことが難しく、家では本児の癩癩暴力等があり親子喧嘩に発展し、暴言がでて警察介入も数回ある。	不登校を主訴に当センターへの相談開始。 親は子どもとへの関わり方についてカウンセリングを行い、児はプレイセラピーにて心理的な支援を行っている。 家以外の居場所として、放課後等デイサービスの利用 行政と連携しながら、児の生活体験が増えるよう働きかけている。
25	女子：14歳	中学3年生	実母(43歳) 実父(46歳) 兄(17歳) 弟(10歳) 弟(7歳) 妹(5歳) 妹(2歳) 弟(1歳) 妹(0歳)	多子世帯。これまで母子世帯で生保を受給してきたが、行政の介入を嫌がり、母が就労する形で生保を終了。その代わりに兄(17歳)と本児が下の子どもたちの世話をしていた。兄は中学卒業後、通信制高校へ合格するも学費が払えず除籍され、アルバイトをしている。本児も不登校で家におり、家庭保育の弟妹らの面倒をみている。行政の介入が嫌になると、市外へ転居を繰り返し、なかなか支援につながりづらく、子どもたちの心理的支援ができない。	児童家庭支援センターは第7子、8子の出産時にショートステイの利用で支援し始めた。児童家庭支援センターの支援地域が広域に渡るため、市外へ引越しても継続的に関わることができている。母のニーズとしては、食料などの支援を求めることが多いが、本児のリストカットなどの不適応行動についても相談あり。本児らとも繋がれるように家庭訪問などを通して、支援していく。
26	女子：12歳	特別支援学校 中部部1年	祖母61歳、実母30歳、 異父妹5歳、叔母23歳、 従妹4歳、3歳	・家族全員が性的モラルに乏しく、能力的に低い。今までに傷患通告も数回あっている。 ・本児が家の家事の手伝いや小さい子たちのお世話を任されている部分もあり、しないと叱責されることもある。 ・知的なハンデがあり、年齢よりも幼い言動がある。一方で異性への関心は強く、距離感が近い。 ・威圧的・攻撃的な家族の下で生活をしており、家庭の中で大人の顔色を窺っている。 ・本児自身も下の子への暴言がある。	週一回の見守り支援強化事業にて配食を行い、見守りを行う。 市と連携し、定期的に電話・訪問を行う。 養育主の祖母が疲労、不安定になった際、ショートステイを受託。

27	女子：13歳	中学2年生	実母(35歳) 養父(38歳) 弟(12歳) 異父妹(7歳)	父母ともに発達特性があり、母はADHDのため片付けができなかったり、スケジュール・家計管理ができず、本児の家事負担が増えている。下の弟も発達障害があり、両親はその対応に苦慮しており、養父から弟への身体的虐待や父母間でのDVによる児らへの心理的虐待で児相の介入もあったケース。	家庭訪問を行い、父母の状況(お互いの不満を溜めないように話を聞く)を把握しながら、本児に対しては心理的支援を行ったり、母から要望のある学習支援、食の支援などを行なっていく。
28	女子：12歳	中学1年	実母、妹6歳	実母がうつ病・アル中であり、長女(中1)は里親措置中で家庭引き取り予定、次女(6)は在宅で引きこもり状態。長女の帰省時は実母と次女のケアを行っている。また、次女も年齢を重ねる今後家事や実母の世話をを行うヤングケアラーとなる可能性が高い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内児家センと連携して支援予定。</li> <li>・行政・児相・社協・学校・放デイなどと情報共有、役割分担を行い、支援する。</li> <li>・経済的支援が可能なくらしサポート事業などを活用して、生活困窮世帯への支援が可能である。またサロンなどのインフォーマルサービスなどを活用し、子どもへの直接的なアプローチも実施する。</li> </ul>
29	女子：8歳	小学3年生	実母、妹7歳	母、長女(8)、次女(7)の3人世帯。全員B2手帳所持しており、世帯全員不登校、引きこもり状態。長女が家事や掃除など実母や次女の世話をすることが度々ある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内児家センと連携して支援予定。</li> <li>・行政・児相・社協・学校・放デイなどと情報共有、役割分担を行い、支援する。</li> <li>・経済的支援が可能なくらしサポート事業などを活用して、生活困窮世帯への支援が可能である。またサロンなどのインフォーマルサービスなどを活用し、子どもへの直接的なアプローチも実施する。</li> </ul>